

## 第6回日韓台災害軽減国際ワークショップ



災害リスク研究ユニット 総括主任研究員 井上 公

### 身近な隣国との研究交流

自然災害に国境はありません。減災研究にも、国境を超えた叡智の結集が必要です。私たちは、地理的にも社会的にも、そして災害に関する環境も近い、おとなり韓国と台湾の防災研究所と、2007年から年に1回の合同ワークショップ開催という形の研究交流を行っています。

韓国の機関は国立防災研究所（National Disaster Management Institute, NDMI）です。NDMIは社会・都市・個人の安全に関する研究、災害製作・リスク評価・災害予測に関する研究、災害情報システムに関する研究などを実施しています。一方、台湾の機関は国立減災科学技

術センター（National Science and Technology Center for Disaster Reduction, NCDR）です。NCDRは、台風・地震・洪水など、各種自然災害に対する、おもに災害対応に関する研究プロジェクトを実施している研究所です。

### 三か国合同ワークショップ

ワークショップは3つの研究所が持ち回りで幹事となって主催しています。今回が都合6回目で、2014年12月9日と10日の2日間にわたって開催されました。今回の会合のテーマは「最近の研究活動と将来の協力の可能性」で、1日目は報告と討論、2日目は新たなMOUの締結



写真1 日韓台ワークショップ参加者

と関連施設の視察が行われました。韓国NDMIからはWoon Kwang Yeo所長ほか6名、台湾NCDRからはHongey Chen所長ほか5名が参加されました。

1日目(12/9)は、第1セッション「各国における最近の災害に関する報告」が行われました。日本からは昨年8月に発生した広島のとちぎの土砂災害、韓国からはGISを利用した安心・安全マップシステム、台湾からは高雄市で発生したガス爆発事故とビッグデータを利用した意志決定システムについて、それぞれ事例の紹介と質疑応答がなされました。

午後は、第2セッション「これからの研究活動」と題して、各国より2題ずつの話題提供がありました。韓国からは衛星画像解析、および災害に関わるビッグデータの解析とその情報利用について、また台湾からは非常時の災害リスク情報管理と緊急災害対応、および災害ポテンシャルマップの開発と普及の実例について、また防災科研からは東北沖日本海溝周辺に建設中の海底ケーブル式地震津波観測施設、S-netを用いた実時間津波予測の構想と、地震動予測地図の改訂および国際化について、それぞれ講演と質疑が行われました。

最後の第3セッション「将来の研究協力の可能性」では、6名のそれぞれの講演者がパネラーとなって関連する話題を提供し、パネルディス

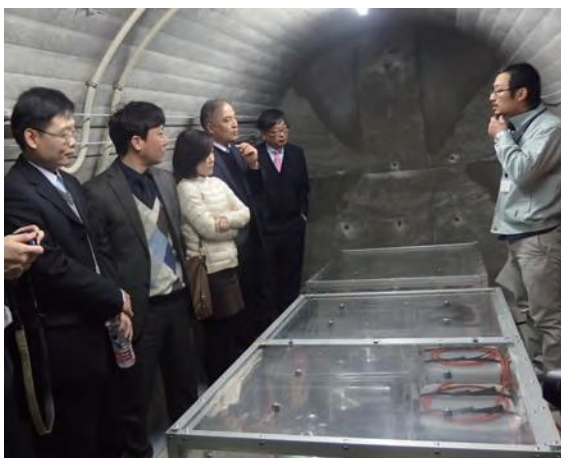


写真2 筑波山地震観測施設の見学

カッションが行われました。

1日目の会議の合間には当研究所の所内施設の見学を行い、2日目(12/10)午後には当研究所が運用する筑波山の地震観測施設の見学(写真2)、さらにつくば市内のJAXAと国土地理院の見学を行いました。

## 新たな研究協力

2日目の午前は、今後の6年間に向けた新たな研究協力協定の締結式が行われました(写真3)。新たな協定書は、情報の交換や人材交流、災害調査への協力などが条項に盛り込まれ、具体的な共同研究を進める際の基礎となるゆるやかな内容となっています。

韓国NDMIおよび台湾NCDRは、我々防災科



写真3 協定書調印後の記念写真

学技術研究所とちがい、地震、火山や気象などの自然現象の観測・予測や、建物の耐震性の研究よりも、社会や人による災害のマネジメントに関わる研究に力を入れています。今後は、継続される情報交換と研究者の交流を通じて、そのような分野での、2機関または3機関合同の具体的な共同研究が実施されることが期待されます。